

山の天気と天気予報

2月1日～3日、蔵王温泉に泊まりスキーを楽しんだ。この季節、蔵王で好天が続くというのは珍しいと、土地の人たちは言っている。天気が悪く降雪が続くからこそ、あの素晴らしい樹氷が発達する、冬の蔵王は天気が悪くて当たり前なのだ。

1日、山形駅で神室山岳塾々長、菅藤満昭氏の出迎えを受け、車で“蔵王温泉みはらしの宿「故郷」”に入る。ちょうど昼時、腹ごしらえを済ましてからゲレンデにむかう。雲一つない快晴ではないが、そこそこ青空も広がる晴天である。風もなく絶好のスキー日和だ。「きのうまでは吹雪いていたんですよ。こんなに天気がいいのは、珍しいことです」とは、バックアップに来てくれた、神室山岳塾メンバーの言。毎山行、天気に恵まれていて、ぼくは自他共に「晴れ男」を任じていた。

この原稿を書いているきょうは4月15日、日曜日である。どんよりした曇り空、夜半に降ったのか路面は濡れているが、雨は上がっているようだ。きょうはただの曇天3ヶ月前から現地集合・解散のぼくの登山教室を企画していて、AさんBさんの2人が参加することになっていた。4日日前の水曜日、Aさんから電話が入った。「木、金、土と晴れですが、日曜日は雨、風も強いという天気予報ですが、実施ですか」というもの。ぼくも気にしていてその天気予報は承知していたのだが、予報は直前にコロッと変わったりするので、「土曜日まで待って下さい」と言って電話を切った。

Aさんから電話が入った水曜日、榛名山麓に在住の佐田氏から丸沼高原スキー場に誘われていた。前日の予報の悪さに計画は中止したが、当日は曇天、青空も垣間見える。よくある話しではある。これがあったから予報の悪さにも関わらず、中止の判断は土曜日夕方の天気予報を待ってから考えようと思っていた。金曜日の昼、Bさんから問い合わせが入ったので、あしたの天気予報で結論を出すからあしたまで待ってほしいとお願いした。

10年くらい前までは、雨が降ろうと、槍が降ろうと、行くと決めたら事前に中止することなく、現地までは必ず行っていた。槍が降ったらもちろん中止するが、多少の雨なら予定通り行動した。「雨が降っても楽しい」なんて言って、雨の山歩きもさして気にならなかった。しかし、古稀を過ぎた現在、雨の中、雨具来て山歩くのは嫌だな、というのが正直な気持ちである。ご一緒する皆さんもぼくと同世代か先輩である。雨に濡れた山道はリスクが大きい。

金曜日、夕方の予報はさらに悪くなって、「春の嵐」という。土曜日まで待たず、この時点で中止を決めて、お二人に連絡した。日曜日の朝が来た。土砂降りの雨を期待していたのに、ただの曇天。山行は中止したのだから、「晴れ男」の名に傷つくことはないが、予報がどんなに悪かろうと、現地までは行っておくべきかなと、反省しきりであった。